

教科	保健体育	科目	保健			単位数	1 単位
学科	普通科 工業科	履修 学年	1	コース		必修・選 択	必修
教科書	「現代高等保健体育改訂版」 大修館						
副教材等	「現代高等保健体育ノート改訂版」 大修館						

グラデュエーション ・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①自己実現に向けて主体的に行動し、目標達成のために継続的に粘り強く取り組む能力と態度を育成する。 ②社会の一員として自己の責任を自覚し、他者と協働しながらより良い社会の実現を目指す態度を育成する。 ③人権、差別問題等を正しく理解し、適切な行動をとることができる能力と態度を育成する。
カリキュラム ・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①進路目標に応じた情報収集や分析等により、生徒に現状と課題を認識させ、進路実現への意欲を高め、自主的な学習活動を促す。 ②ICTの活用による学習効果を高める工夫や積極的な授業改善により、生徒が「より深く分かる」授業を展開する。 ③探究活動を通じて、広い視野で物事を捉え思考する能力、課題解決に主体的に取り組む姿勢を育成する。また、発表等の機会を活用し、企画力やプレゼンテーション能力等の育成を図る。 ④人権に関する課題や多様性について理解を深め、課題を自らの事として捉え、人権を尊重する行動がとれる資質を身に付ける。 ⑤生徒の人格を尊重した丁寧な指導や、内面に寄り添った支援等により、自律的な行動への変容を促し、自己指導力を向上させる。

学 習 目 標	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。 (1) 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身につけるようにする (2) 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに目的や状況に応じて他者に伝える力を養う (3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力のある生活を営む態度を養う
指導の重点	健康の意味や意義について理解を深め、現代社会が抱えている健康問題を把握する。ヘルスプロモーションの重要性を深めながら、保持増進するための対策や疾病予防のための基礎的な知識を習得し、実践できる態度と能力を育てる。

学 習 計 画	学期 (時数)	学習項目	学習内容(学習活動)	評価方法
	1 学期 (10)	【現代社会と健康】 1. 健康の考え方と成り立ち 2. 私たちの健康のすがた 3. 生活習慣病の予防と回復 4. がんの原因と予防 5. がんの治療と回復 6. 運動と健康 7. 食事と健康 8. 休養、睡眠と健康 9. 喫煙と健康 10. 飲酒と健康 11. 薬物乱用と健康	- 健康についての多様な考え方 - 健康の成り立ちとその要因 - わが国における健康水準の向上 - わが国における健康問題の変化 - 生活習慣病とその種類 - 予防から回復まで - がんとその種類 - がんの予防 - がんの治療と緩和ケア - がんとともに生きる社会づくり - 健康からみた運動の意義 - 健康により運動のしかた - 健康的な食生活の意義 - 健康により食事のとり方 - 健康からみた休養の意義 - 健康からみた睡眠の意義 - 喫煙の影響 - 喫煙への対策 - 飲酒の影響 - 飲酒への対策 - 薬物乱用の健康 - 薬物乱用の要因と対策	定期考査や小テストの成績、授業中の態度・発表、レポート等各種提出物、振り返りシートなどから総合的に判断し、評価する。
	2 学期 (12)	12. 精神疾患の特徴 13. 精神疾患の予防 14. 精神疾患からの回復 15. 現代の感染症 16. 感染症の予防 17. 性感染症・エイズの予防 18. 健康に関する意思決定・行動選択 19. 健康に関する環境づくり	- 精神疾患の要因と種類 - 精神保健の今日的課題 - 日常生活における精神疾患の予防 - 精神疾患の早期発見・早期治療 - 専門家による支援と治療 - 社会環境の整備 - 感染症とは - さまざまな感染症 - 感染症予防の3原則 - 現代の感染症対策 - 性感染症・エイズとは - 性感染症・エイズの予防 - 意思決定・行動選択とそれに影響を与える要因 - 適切な意思決定・行動選択を実現する工夫 - 健康を保持増進するための環境 - ヘルスプロモーションの考え方 - にもとづく環境づくり	定期考査や小テストの成績、授業中の態度・発表、レポート等各種提出物、振り返りシートなどから総合的に判断し、評価する。

	3 学期 (10)	【安全な社会生活】 1. 事故の現状と発生要因 2. 安全な社会の形成 3. 交通における安全 4. 応急手当の意義とその基本 5. 日常的な応急手当 6. 心肺蘇生法	・ 事故とその被害 ・ 事故の発生に関連する要因 ・ 自他の安全を確保する行動 ・ 安全を確保する社会の取り組み ・ 交通事故防止のための取り組み ・ 交通事故と運転者の責任 ・ 応急手当の意義 ・ 応急手当の手順 ・ けがに応じた応急手当 ・ 熱中症の応急手当 ・ 心肺蘇生法の意義と方法	定期考査や小テストの成績、授業中の態度・発表、レポート等各種提出物、振り返りシートなどから総合的に判断し、評価する。
計 3 2 時間（5 5 分授業）				
評価の観点 の趣旨と 評価方法	知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	現代社会と健康、安全な社会生活について、個人及び社会生活における健康・安全について理解を深め、知識を身につけている。		健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に表現している。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活に結びつけようとしている。
	[評価方法] 以上の観点を踏まえ、定期考査や小テストの成績、授業中の態度・発表、レポート等各種提出物、振り返りシートなどから総合的に判断し、達成率が 80%以上を A、79～50%を B、50%未満を C と評価する。			